

## 富士紀行 (18) 珍妙な富士登山競争

富士山麓に住む人々は永年の経験によって、富士山に現れる雲の形等によって天気や風の予測をして、それぞれの生業に活かしている。我々富士演習場で訓練する者にとっても天気は気になるところである。天候気象を最大限利用することは戦勝のための一要件であること疑いを入れない。

天気に関連する富士山特有の雲として、「笠雲」と「吊し雲」がある。

笠雲というのは、富士山にぶつかった気流が山頂を越えるときに、山頂部に出現する菅笠やベレー帽のような形の雲である。笠雲が出現すると24時間以内の降水確率が非常に高い。観測記録によれば、夏では80%強であるという。

山頂から離れて出現する「はなれ笠」は、天気が良いとき又は天気が良くなる兆候はなれ笠が山体にくっついた「ひとつ笠」は雨笠の代表格

吊し雲は、山頂を越えた気流と山の両側を巻いてきた気流が合流して山頂部を越えた風下側に出来る UFOを思わせるレンズ状の雲や白鳥が大きく翼を広げたような形の雲である。

(以上は、「富士山の笠雲と吊し雲」湯山生氏記から抜粋)

今、私の手元に「画集 富士の里 須走」(須走歴史の会発行)がある。大正から昭和(戦前)までの須走の人々の生活や富士登山に関する山岸昱氏の絵を集めた画集がある。その中で、面白い絵を発見した。動物の登山競争が行われたとかで、須走口からの参加動物のロバ(驢馬)が、現在の須走車庫前に設けられた歓迎小屋の中に鎮座ましましている絵とスタートの情景、及び応援歌付きの登山する驢馬のおたま君を描いた3枚の絵である。この催しは、昭和5、6年の頃東京日々新聞社主催で行われたようである。吉田口からは牛、御殿場口は馬だった由。優勝は須走口の驢馬の”おたま君”だったそうである。面白いことを考えるものだ。